

事例

災害時の食に備える普及啓発活動 (第7回食育活動表彰 消費・安全局長賞受賞)

びぜん
備前市栄養委員会 (岡山県)

備前市栄養委員会(以下「栄養委員会」という。)は、地域に根差したネットワークを生かしながら、昭和46(1971)年から活動しています。自分や家族の健康のため、健康課題やその改善方法を学び自らが実践してみること、また、学んだことや実践したことを市民の健康づくりに広げていくことを目的としています。

活動を続ける中で、災害時にも心身の健康を損なわないようにするためには平時から食の備えが必要と考え、平成28(2016)年度から「災害時に役立つパッキング調理実習」を開始しました。また、令和2(2020)年度からは防災の意識を高め、家庭で災害時に備えてもらうため、地域で備蓄品を取扱う店舗を開拓したり、備蓄品の展示会を開催したりしています。展示会では、3日分の備蓄品を用意するとどのくらいの量になるのか、何を準備したらよいのかなどを展示しています。そのほか、「食べ慣れていない食品は災害時には食べられなかった。」という被災者の体験談を踏まえ、アルファ米等の備蓄品を配布し実際に食べてもらい、災害時に活用できる体験の提供も行っています。令和3(2021)年度には、小学生を対象に「備えよう!災害の前に〜いざという時にできることを考えよう〜」を開催し、講話と併せて、備蓄食品を使用した調理実習を行いました。

災害時に備えた活動を始めてから、市民を対象とした意識調査では「あなたは、災害等に備えて備蓄品を3日分用意していますか」という質問に対して「用意している」と回答した人の割合が、令和元(2019)年の22%から令和3(2021)年には27%となり、約5ポイント上昇しました。

生きるための手段である「食べること」は、子供から大人まで、災害時だけでなく平常時の健康へも活かすことが出来ます。今後も災害時の備えとともに、平常時でも生きる力を身につけることができるよう、地域の方々に食の大切さを伝えていきます。



展示会の様子



小学生への講話